

第3章 国際社会に生きる日本人の自覚

2 仏教と日本人の思想形成

2 仏教の日本的展開（教科書 P. 84～88）

●浄土信仰の教え [p. 84]

浄土信仰とは

= 「この世は苦しみに満ちた穢れた世界だが、[]の慈悲によって

[]に往生できる」という信仰

→平安時代後半の社会不安で信仰普及

[] → 諸国を念仏しながら遊行，道を開き井戸を掘り，死骸を葬り，

阿弥陀聖とよばれる

[] → 「厭離穢土，欣求浄土」 → 「いろは歌」の背景

法然 → 「[]」: []の世 = 自力で悟るのは無理

ただひたすら「[]」ととなえることで阿弥陀仏の慈悲に救われ、

極楽往生できる

親鸞 → ① 「[] 説」

善人 = 自力で救われると思っている

悪人 = 自分の罪深さを自覚

→ ただ仏にすがることができる

悪人の方がかえって救われやすい

② 「[]」

: 「念仏」の行為すら「他力」

ひたすら阿弥陀仏の力を信じまかせる

ただ念仏することが他者を救う慈悲

③ 「[]」

: 「絶対他力」の信仰を、自力のはからいを捨てて自然の働きのままにまかせる

● 禅の教え [p. 86]

= 心身を統一するという意味

→ 自力による修行

↓
(中国で確立)

[] = 臨済宗をもたらす ← 布教禁止 ← 『興禅護国論』で弁明

道元 = 曹洞宗を伝える

① [] : 真実の仏法はだれにも備わる

→ [] (= 正しい修行法) をひたすらおこなう

② [] : 自己の妄念を捨て去る

→ ありのままの存在と一体となった境地にいたる

③ [] : 修行(坐禅)は手段ではなく悟りそのもの

→ 修行と証(悟り)は一つのもの

● 『法華経』信仰 [p. 87]

日蓮 = ① 『[]』信仰

= 『法華経』こそ真のブツダの教え

→ 『法華経』にもとづく正しい仏教樹立

→ 国の安泰(「立正安国」)につながる

② 他宗排撃 → []

「念仏無間, 禅天魔, 真言亡国, 律国賊」

③ 唱題 = 「[]」の [] をひたすらとなえる

● 日本的仏教の特色 [p. 88]

[]・[] → 「南無阿弥陀仏」の念仏, 阿弥陀仏をひたすら信じる

[] → 坐禅をひたすらおこなうことにおける捨身

[] → 「法華経」のみを選び「南無妙法蓮華経」の題目への単純化

[] (捨聖) = 時宗の開祖



→すべてを捨てて阿弥陀仏に帰依せよと説き踊り念仏をはじめる

これらに共通すること

◎理論・体系をそぎ落とし、単純な [] や [] にひたすら打ちこむ

→自己を純化・浄化させ、自己のはからいを超えた「おのずから」の働きに

したがわせようとした